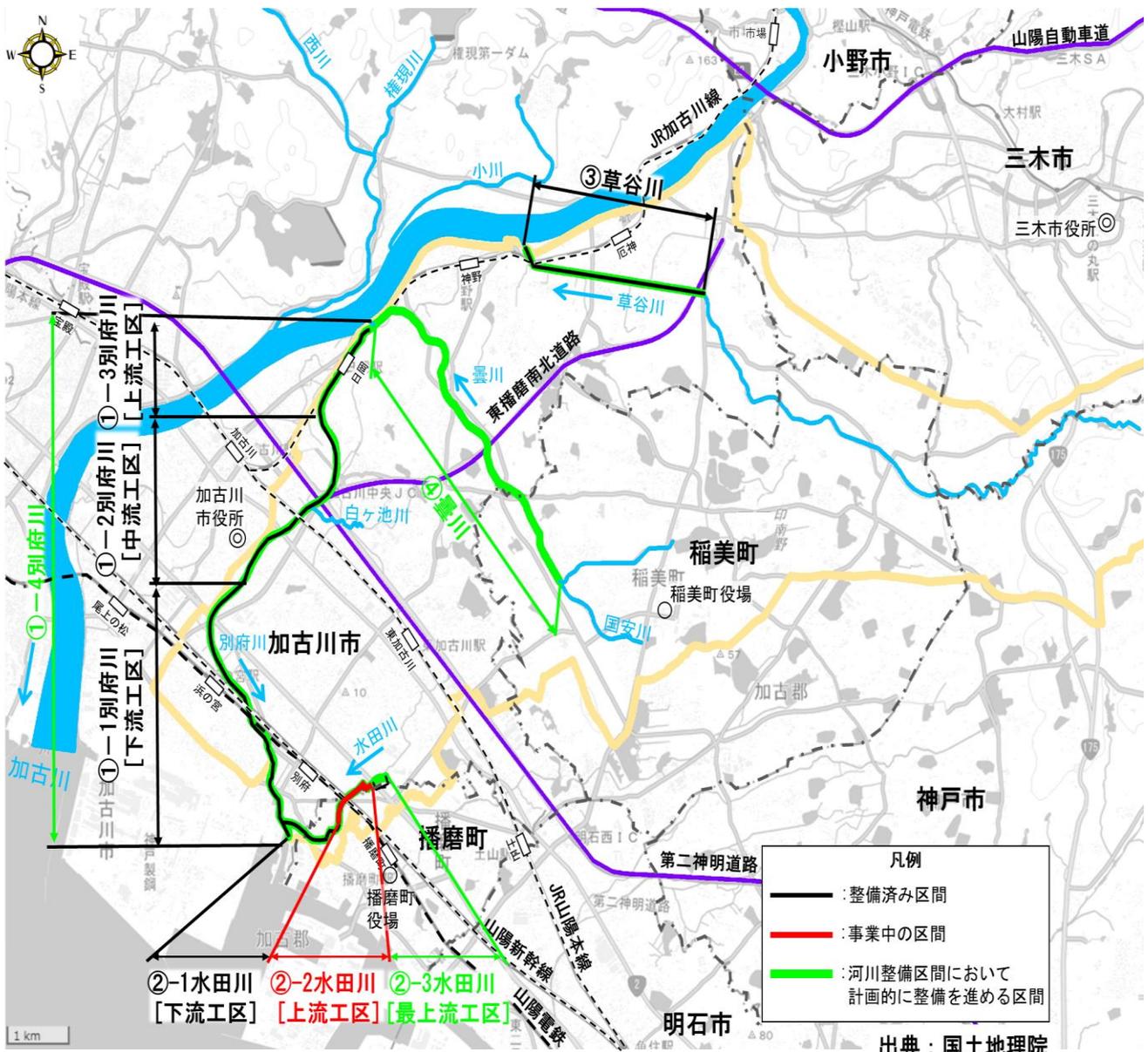


令和6年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第4回〕）

部課室名	土木部 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 福永 悦男 (河川・武庫川整備班主幹 寺田 悟)	内線	4408 (4437)
事業種目	河川事業	水系名	加古川水系		
事業目的					
加古川水系下流圏域において、平成16（2004）年11月に策定した河川整備計画に基づき、洪水対策を実施することにより、治水安全度を向上させ、地域の安全・安心を確保する。					
加古川水系下流圏域河川整備計画における「計画的に整備を進める区間」					
支川					
	区間	延長	整備目標	事業の状況	前回評価年度
①-1	別府川 [下流工区] 別府町西脇 ～野口町良野	3.9km	年超過確率 1/10 の規模の洪水を流下	H30(2018) 完了	—
①-2	別府川 [中流工区] 野口町良野 ～加古川町美乃利	3.4km		H18(2006) 完了	—
①-3	別府川 [上流工区] 加古川町美乃利 ～神野町西之山	1.3km		R6(2024) 完了	R1(2019) 再評価
①-4	別府川 別府町西脇 ～神野町西之山	8.6km	昭和58年9月の台風第10号と同程度の洪水流量を安全に流下	未事業化	—
②-1	水田川 [下流工区] 別府川合流点 ～播磨町北本荘	1.2km	平成2年9月豪雨と同程度の洪水流量を安全に流下	H14(2002) 完了	—
②-2	水田川 [上流工区] 播磨町北本荘 ～明姫幹線	0.7km		事業中	R1(2019) 再評価
②-3	水田川 [最上流工区] 明姫幹線 ～法河川上流端	0.2km		未事業化	—
③	草谷川 加古川合流点～厄神橋	2.9km	昭和58年9月の台風第10号と同程度の洪水流量を安全に流下	H26(2014) 完了	—
④	曇川 JR加古川線橋梁 ～国安川合流点	4.9km	昭和58年9月の台風第10号と同程度の洪水流量を安全に流下	未事業化	—

# 加古川水系下流圏域 河川整備計画 全体位置図

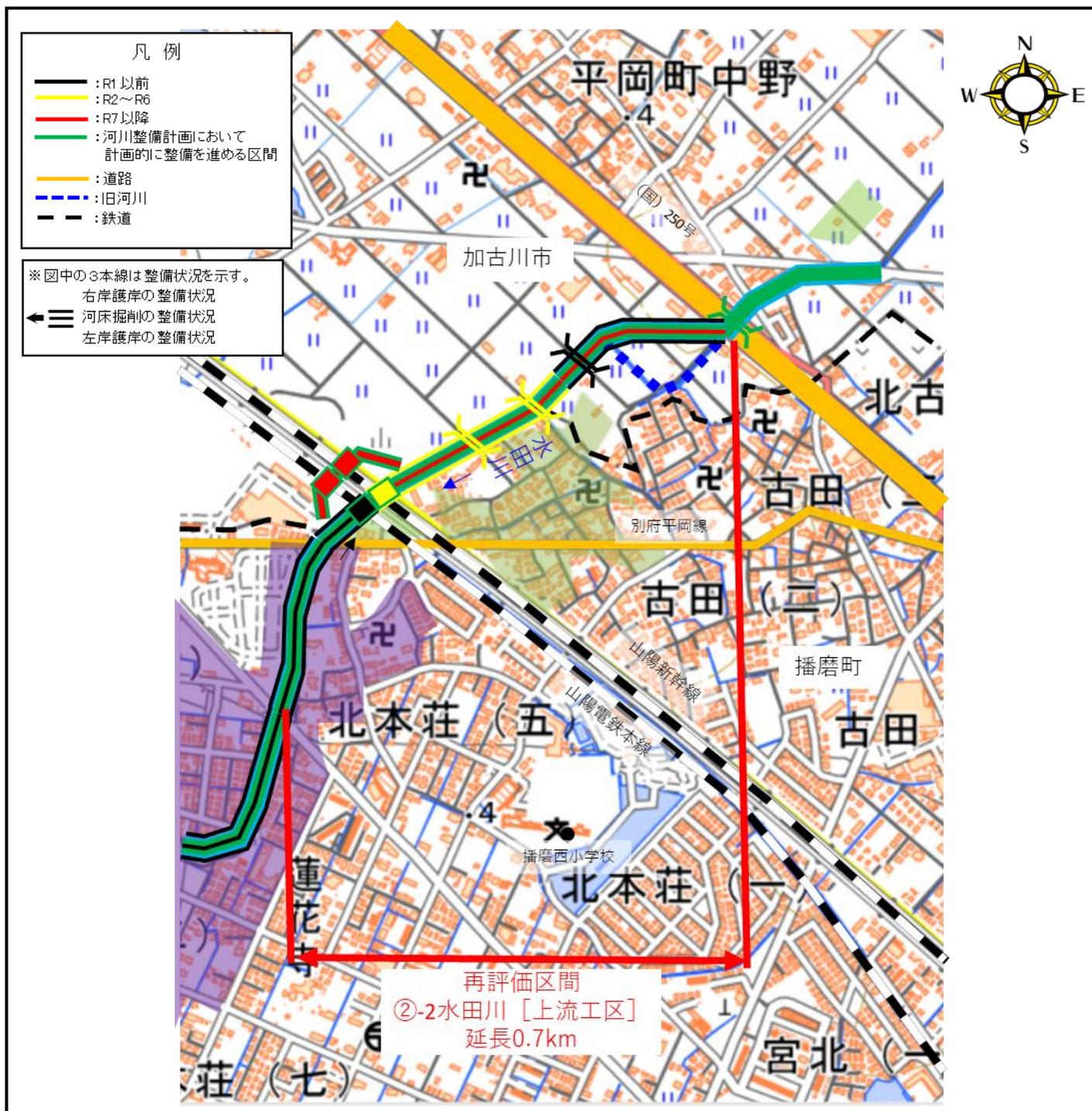


【加古川下流圏域】

事業概要および進捗状況			今回評価内容 ( ) : 前回評価時点				
工区	事業区間	整備内容		全体事業費	進捗率	残事業費	完成予定年度
②-2 水田川 [上流工区]	播磨町北本荘 ～明姫幹線	河道改修 0.7km 護岸、河床掘削 鉄道交差部改修	事業費	65億円 (55億円)	72% (67%)	18億円 (18億円)	R16 (R6)
		【負担割合】 国：50% 県：50%	内用補	16億円 (16億円)	99% (99%)	0.2億円 (0.2億円)	

事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	<p>気候変動の影響により、近年、豪雨災害が頻発化・激甚化していることから、河川改修に対する地元要望は強まっている。</p> <p>【前回評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 下記の理由等により、事業費および事業期間を変更する。(10億円増額、10年延伸)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労務単価等の上昇及び材料単価の高騰に伴う増額</li> <li>・地元協議等による仮設計画の変更に伴う増額及び事業期間の延伸</li> <li>・鉄道事業者との協議に伴う事業期間の延伸</li> </ul>	
進捗状況	<p>[水田川（上流工区）]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全区間において用地取得が完了。</li> </ul> <p>&lt;鉄道交差部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2本の流路（本川水路、分水路）のうち本川水路は令和2年度に完了。</li> <li>・令和6年度から分水路整備を開始予定であり、令和14年度完了予定。</li> </ul> <p>&lt;鉄道交差部を除く区間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度までに護岸整備・橋梁架替が完了。</li> </ul>	
評価視点	評価結果の説明	
審査会意見及び対応方針 (R1年度再評価)	【審査会意見】(継続妥当) なし	【対応方針】 -
(1)必要性	<p>加古川下流圏域では過去に発生した洪水により、甚大な浸水被害が発生している。また、気候変動の影響により、近年、豪雨災害が頻発化・激甚化していることから、河川改修に対する要望も強い。</p> <p>【近年の主な浸水被害実績(加古川下流圏域)】                      昭和58年9月台風10号（床上53戸、床下460戸）                      平成2年9月台風19号（床上38戸、床下948戸）                      平成16年10月台風23号（床上12戸、床下116戸）                      平成23年9月台風12号（床上6戸、床下31戸）</p>	
(2)有効性 ・効率性  (事業執行環境)	<p>① 費用便益比：B/C=19.1（※河川整備計画における全ての事業による費用便益比）                      ② 河川整備計画を平成16年11月に策定済み。                      ③ 地権者や地元の協力により、用地取得は完了しており事業執行環境は整っている。                      ④ 地元から早期事業完了の要望がある。</p>	
(3)環境適合性	<p>・環境配慮型のブロックなどを用いた護岸整備など、多様な生物の生活環境への影響を最低限にとどめる。</p>	
(4)優先性	<p>・事業区間には人家連担区域が含まれており、流下能力不足による大きな浸水被害が想定されることから早期に整備する必要がある。</p>	
の再 評価 結果	継続	左の理由 事業の必要性は、事業採択時と変わっておらず、地域住民の安全・安心な生活環境を確保するため、事業を継続する必要がある。

加古川水系水田川〔上流工区〕 整備概要図

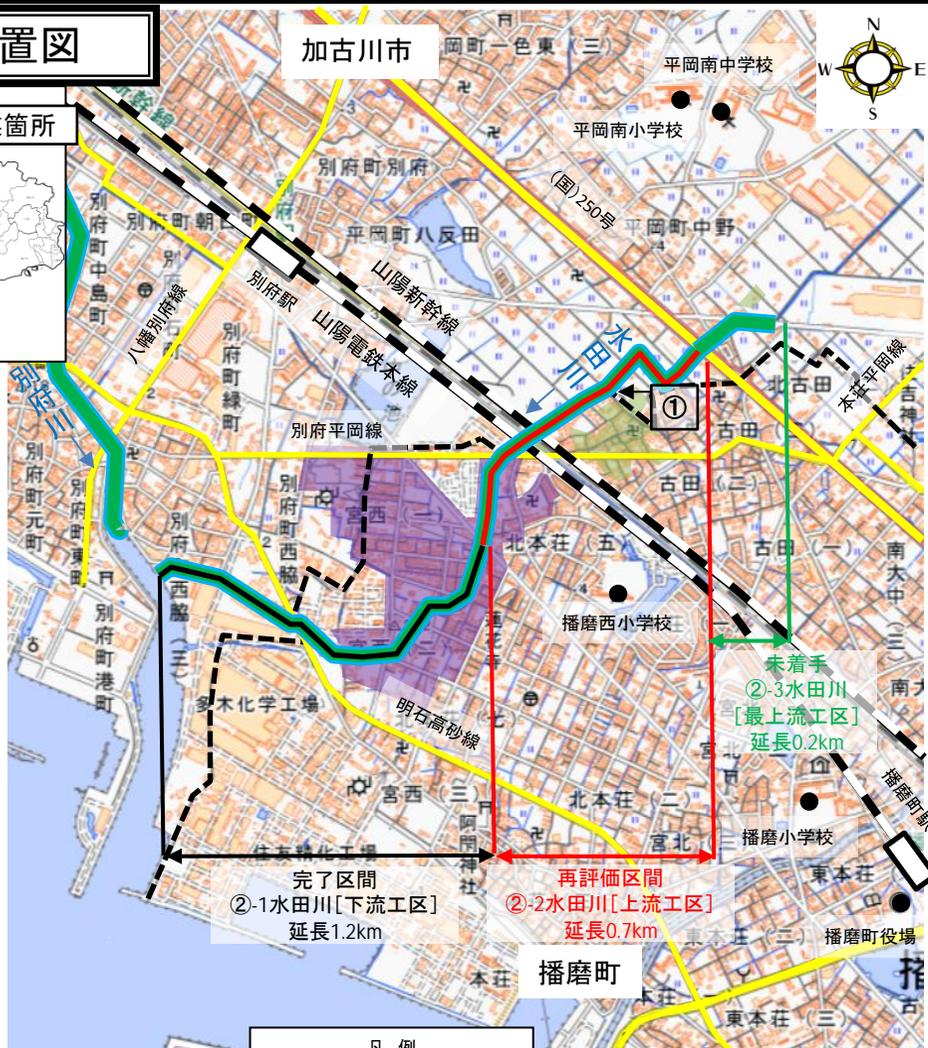


工区	河川整備計画全体	前回評価まで	前回評価からR6(2024)まで	今後5年間 R7(2025)~ R11(2029)	今後10年間 R12(2030)~ R16(2034)
②-2 水田川 上流工区	H16~R16年度 【事業費=65億円】 ・整備延長L=720m ・整備概要： 護岸 河床掘削 鉄道交差部改修	H16~R1年度 【事業費=37億円】 ・護岸 ・河床掘削 ・鉄道交差部改修 (本川水路)	R2~R6年度 【事業費=10億円】 ・護岸 ・河床掘削 ・鉄道交差部改修 (本川水路)	R7~R11年度 【事業費=12億円】 ・鉄道交差部改修 (分水路)	R12~R16年度 【事業費=6億円】 ・河床掘削 ・鉄道交差部改修 (分水路)
		流下能力向上	流下能力向上	流下能力向上	流下能力向上

# 河川事業 一級河川加古川水系 水田川[上流工区] (継続:再評価〔第6回〕)

## 位置図

事業箇所



完了区間  
②-1水田川[下流工区]  
延長1.2km

再評価区間  
②-2水田川[上流工区]  
延長0.7km

- 凡例
- : 再評価区間
  - : 河川整備計画において計画的に整備を進める区間
  - : 道路
  - : 線路
  - : 駅
  - : 公共施設

- 凡例
- : 平成2年台風第19号 浸水実績
  - : 平成23年台風第12号 浸水実績

出典: 国土地理院

## 目的

加古川水系下流圏域河川整備計画(H16.11)に基づき、治水安全度を向上(平成2年9月豪雨と同程度の洪水を安全に流下)

## 事業概要

事業区間 : 播磨町北本荘～明姫幹線  
 総事業費 : 65億円(内用地補償費 : 16億円)  
 事業期間 : H16(2004)～R16(2034)  
 事業概要 : 河道改修  
 延長 : 0.7km  
 費用便益比B/C : 19.1 (河川整備計画における全ての事業による費用便益比)

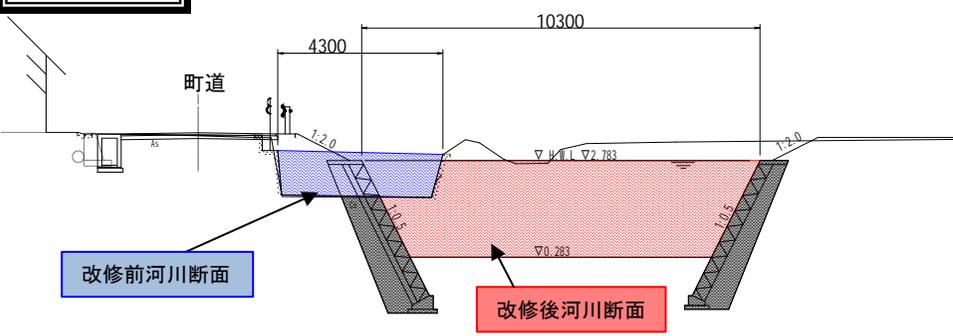
## 浸水実績

①浸水実績 (平成23年台風第12号)

浸水実績 (平成2年台風第19号)



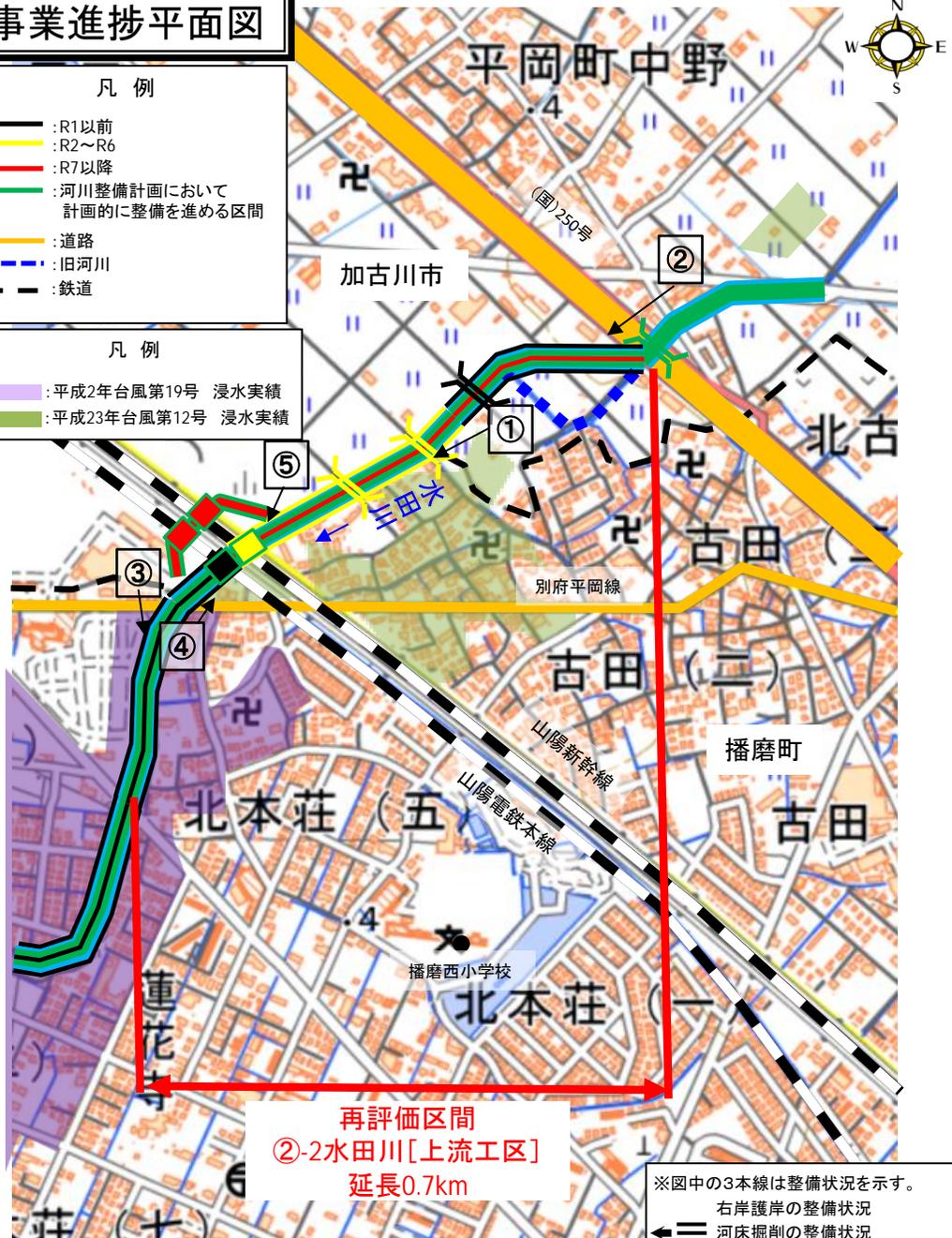
## 横断面図



# 事業進捗平面図

- 凡例
- : R1以前
  - : R2～R6
  - : R7以降
  - : 河川整備計画において 計画的に整備を進める区間
  - : 道路
  - : 旧河川
  - : 鉄道

- 凡例
- : 平成2年台風第19号 浸水実績
  - : 平成23年台風第12号 浸水実績



再評価区間  
②-2水田川[上流工区]  
延長0.7km

※図中の3本線は整備状況を示す。  
 右岸護岸の整備状況  
 河床掘削の整備状況  
 左岸護岸の整備状況

出典: 国土地理院

# 現況写真

②全体写真



③完成区間(水田橋)



④・⑤残事業区間(山陽電鉄・JR交差部)



# 工程表

- : 前回計画
- : 実施・計画

種別	H21～R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
用地買収	■	■														
河道改修	■	■	■	■	■	■	■									■
橋梁	■	■	■	■	■	■										
鉄道交差部(本川水路)	■	■														
鉄道交差部(分水路)							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

# 事業の有効性・効率性

## (1) 費用対効果

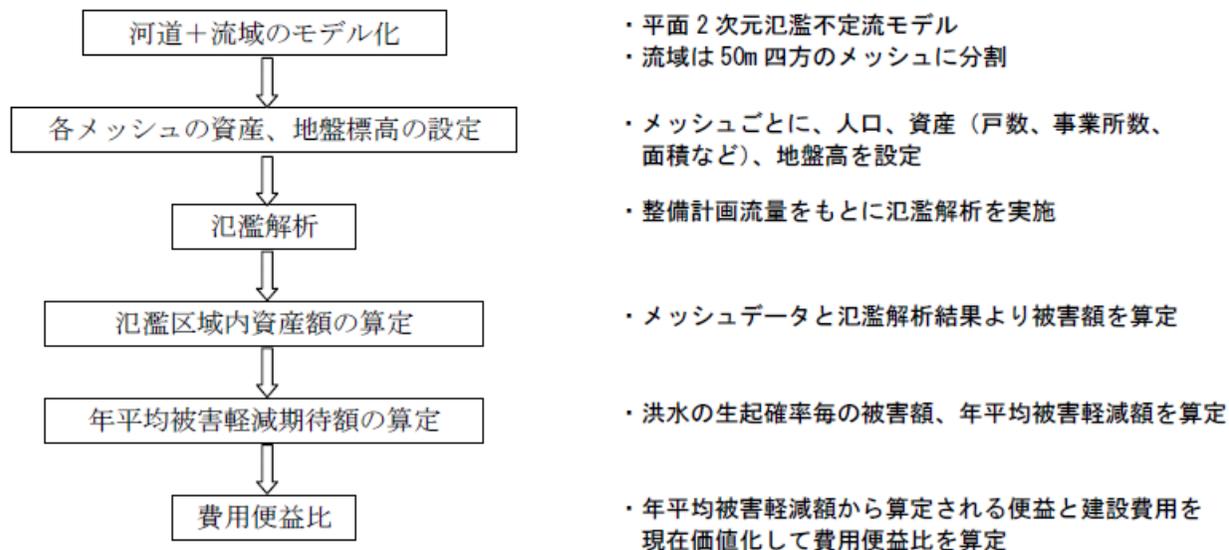
### ① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等)</li> <li>・農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用</li> </ul>

1) 便益＝「治水事業を実施することによる被害軽減期待額」を現在価値化

被害額＝一般資産被害＋農作物被害  
 ＋公共土木施設等被害  
 ＋営業停止被害＋応急対策費用

2) 費用＝「建設費＋維持管理費」を現在価値化



### ② 費用便益費(B/C)算出根拠

B(便益)		C(費用)			B/C
便益額	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
786,352 (百万円)	計画規模の降雨に対して、 浸水世帯15,667世帯 (床上:3,021、床下:12,647)の解消 浸水面積822haの解消	41,261 (百万円)	37,326 (百万円)	3,935 (百万円)	19.1

※河川整備計画における全ての事業による費用便益比

## (2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等
社会経済活動等の安定	人的被害の軽減	○ ・浸水区域内人口37,215人 ・災害時要援護者12,275人を解消 ・最大孤立者8,686人
	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の軽減	○ ・道路の交通途絶による波及効果の解消 ・国道250号（交通量42,288台／日） ・主要地方道加古川小野線（交通量21,798台／日） ・鉄道の交通途絶による波及効果の解消 ・JR加古川線（平均利用者数3,137人／日） ・山陽電鉄本線（平均利用者数43,532人／日）
	医療・社会福祉施設、防災拠点施設、文化施設等の被害の軽減	○ ・機能低下する施設等の解消 ・はとのさと保育園、やはたこども園、加古川警察署日岡交番、加古川市民ギャラリー、加古川市立図書館
	水害廃棄物の発生の軽減	○ ・水害廃棄物8,407t、処理費用23,540万円の解消

## (3) 地域からの要望状況等

要望状況等	<p>①加古川市では、現在市民約5万世帯を会員とする「治水対策促進会」が昭和29年に発足されるなど、古くから地域住民の治水に対する意識が高く、毎年、治水対策の促進について強い要望が出されている。</p> <p>②水田川については、加古川市と播磨町で「水田川改修促進期成同盟会」を設立しており、毎年事業推進について強い要望が出されている。</p>
-------	--

## 参考：事業の変遷

<p>&lt;別府川&gt; 昭和58年：広域河川改修事業着手（上流工区） 平成16年：加古川水系下流圏域河川整備計画策定 平成21年：継続事業評価（第1回） 平成26年：継続事業評価（第2回） 令和元年：継続事業評価（第3回）</p> <p>&lt;水田川&gt; 平成14年：新規事業評価 平成15年：広域河川改修事業着手 平成16年：加古川水系下流圏域河川整備計画策定 平成24年：継続事業評価（第1回） 平成26年：継続事業評価（第2回） 令和元年：継続事業評価（第3回）</p>
--